

野生獣から農作物を守るために

【イノシシ、シカ、サルによる農作物被害は年々増加し、御代田町でも至るところで獣による被害、踏み荒しなどの被害が発生し、農家にとって深刻な悩みとなっています。特に繁殖力の高いイノシシ、シカは、捕獲に頼って減少させることは難しいのが現状です。大切な農作物を獣から守り、被害を最小限に食い止めるよう防除対策を実施していただくようお願いいたします。

【イノシシ】

防護柵などの障害物に対しては、警戒しながら近づき安全を確認する。20cm程度の隙間があれば潜り抜けられる。鼻は鋭い嗅覚をもつ以外に土を掘る、障害物を動かすときにも使われる。鼻で50〜60kgのものを持ち上げることができる。鼻先は敏感で電気刺激などには弱い。

【シカ】

ほとんど助走せず1.5mの障害物を飛び越える。一方、防護柵などの障害物では隙間や下を潜ることが多い。

防護柵の設置

普通、数十頭〜百頭程度の群で生活し、百頭前後になると分裂する可能性が高くなる。また、被害軽減のための捕獲を行った場合にも群の分裂が起きることがある。

サルは危険なときには高い所に逃げる習性があるが、人馴れが進むと人家や農地にも出没するようになる。

比較的避ける農作物は、トウガラシ、コンニャク、サトイモ、ゴボウが挙げられる。

【トタン板の柵】図1

視界を遮る防護柵を設置する場合は

○地面に凹凸が多い所は平坦に整地し、トタンと地面の間の隙間をなくす。

○つなぎ目に隙間ができないようトタン板を十分重ねて設置する。

○支柱は1.6〜1.8m間隔に立て、ぐらつかないよう深く打ち込む。

○地面がやわらかい箇所は、支柱の感覚を狭くして強度を増すよう設置する。

○遮光ネットやビニールシートも目隠し効果はあるが、強度が弱い。

【金網フェンス・ワイヤーメッシュの柵】

イノシシ・シカに効果がある。○支柱は2〜3m間隔に立て、傾斜地では強度を確保するため支柱の間隔を狭くする。

○高さはイノシシは1.5m、シカは2〜2.5mにする。

○地面との接地面は30〜40cm外側へ折り返し、ペグを斜めに打ち込む。

防護柵の特徴

防護柵	資材の特徴	囲い方などのポイント	効果
トタン板	幅80cmのトタンが効果的	おもにイノシシに対して有効。隙間をつくらないように設置	イノシシ ◎ シカ × サル ×
金網フェンス	野生獣に押し広げられにくいように10cm以下の目合いがよい	対象獣に応じた柵の高さ、設置面の処理が必要。	イノシシ ◎ シカ ◎ サル ×
ワイヤーメッシュ	イノシシ用は、径5mm以上の鉄棒で、目合いは10cm以下のメッシュがよい	おもにイノシシに用いる。上部を折り返すと侵入防止効果が高い。シカ用には2mの高さが必要。	イノシシ ◎ シカ ○ サル ×
ネット	イノシシ、シカは金属線を編みこんだ獣害専用ネット(目合いは10cm以下)が効果的。サルはポリエチレン製・テグス製の網(目合い4〜5cm程度)を使用。	侵入方向にネットを垂らして侵入を防ぐ。	イノシシ ○ シカ ○ サル ○
電気柵(電線型)	アルミ線、針金あるいは金属線を編みこんだロープなどを使用	電圧のチェック、漏電防止のため草刈りが重要。サルを防ぐには侵入に時間がかかるようネットなど他の防護柵を組み合わせる。	イノシシ ○ シカ ◎ サル ○
電気柵(ネット型)	通電性をもったネットを使用。	おもにサルに対して用いる。管理は同上。	イノシシ ◎ シカ ◎ サル ◎

効果:◎効果が高い、○効果がある、×効果なし

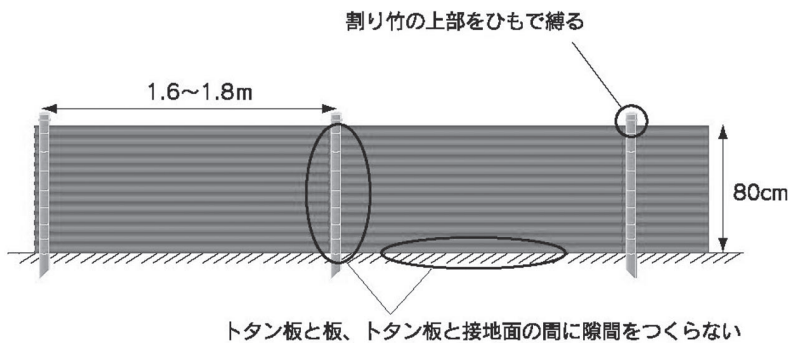


図 I トタン板の囲い方のポイント

【ネット柵】

- イノシシ・シカ用ネット
- 数m間隔に支柱を打ち込み、ネットは緩めに張った方が噛み切れにくく、絡みやすくなり、防護効果が高くなる。
- ネットの高さは、イノシシは1.5m、シカは2〜2.5mにする。
- 地面との接地面はペグで固定する。

【電気柵】

- 電線型はおもにイノシシやシカ、ネット型はサル用に利用されます。
- 柵線の高さは獣で異なる。イノシシ
- 最下線を地面から15cmの高さに、その上に20〜30cm間隔で1〜2本電線を張り、最上線を60cm程度にする。
- シカ
- 最下線を地面から25cm以下、最上線を120cm程度にし、線20〜25cm間隔で4段以上張る。
- 電圧のチェックや漏電防止のための草刈りなど管理をこまめに行う。
- 町では、防護施設設置の資材費に対して1/3、上限10万円の補助制度を設けています。内容はお問い合わせください。

問い合わせ先

産業経済課農政係
(32)31111(内線64)

こんにちはは農業委員会です

■御代田町農業委員会事務局32-31111(内線27・64)

農業委員決まる

会長代理 土屋 學氏
会 長 内堀 善夫氏

任期満了に伴う御代田町農業委員の改選に伴い、次の方々が選出されました。

農業委員担当地区

担当地区	委員氏名	備考
草越	大木 敏雄	選挙委員
広戸	土屋 勝己	選任委員
面替	柳澤 秀二	選挙委員
豊昇	茂木 勲	選任委員
栄町・荒町	大井 壽尚	選挙委員
上宿・小田井	山岸 孝一	選任委員
児玉・平和台	尾台 豊	選挙委員
西軽井沢	荻原 文雄	選挙委員
馬瀬口	高橋 浩	選挙委員
	山本みさ子	選挙委員
	清水 賢司	選挙委員
	古越 日里	選任委員
	内堀 善夫	選挙委員
	内堀 文夫	選挙委員
	内堀 長子	選任委員
三ツ谷・清万・一里塚	土屋 學	選挙委員

会長あいさつ

内堀 善夫



地域の皆様には、平素より農業委員会の業務について、ご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

去る7月20日から3年間、御代田町農業委員会会長の重責を担うことになりました。

今日、農業を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化、農業資材の高騰、食糧自給率の低下、耕作放棄地問題など大きく変化しています。こうした厳しい状況の中、農業委員会は、かけがえない農地と担い手を守り、力強い農業をつくる「架け橋」として、新たな時代の要請に真正面から取り組み、その役割をしっかりと果たすべきであると考えています。

町の基幹産業である農業の持続的発展を実現するために、地域の特性を活かした魅力ある農業を創出し、生産性が高く、行き先に灯りの見える農業を求めて、行政や関係機関との連携をとりながら、その使命を果たしていく所存です。

最後に地域の皆様の方々のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、就任のあいさつとさせていただきます。